



1年各教室の入り口には、願い事を短冊に書いた笹飾りが飾ってあります。

「次のテストで〇番以内に入れますように」とか「1年生大会で勝てますように」など現実的で具体的な願いもあれば、「信頼されて気配りができる東中生になりたいです」「自分から色々な人たちにあいさつできるような東中生になりたいです」「みんなに優しく明るい誠実な

人になりたい」など、これからなりたい自分の姿を願うものもありました。今日は七夕。願い事が叶うようにと祈りつつ、星空を眺めてみようと思います。

星空と言えば・・・2年生の道徳科の授業で、「宇宙の始まりに思いを寄せて」という巨大天体「ヒミコ」をハワイのすばる望遠鏡で発見した大内正己さんの文章を教材に、「感動、畏敬の念」について授業を行っていました。

教室ではなく集会室を会場に、部屋の前面が映画館のスクリーンと化し、巨大な天体をプロジェクターで浮かび上がらせると、「おおっ」という歓声が出ました。心が動かされたようです。この天体は地球から130億光年離れたところがあり、130億年前の光を現しているという話を教師がしました。

宇宙には天の川銀河やアンドロメダ銀河、子持ち銀河、おとめ座のM87など、無数に星の集まった銀河がまだどのくらいあるかはわかっていないほど果てしなくあるそうです。どこまでも広がる壮大な宇宙。



「ヒミコ」を発見した大内さんは小1の時に読んで地球誕生を描いた一冊の本に感動して、天文学者への道へと進みました。

そんな感動の力について、授業で生徒に問うと、「あんまり僕は感動するという体験が分かんない。どんなもんかなあ。」という子もいれば、「人間って知りたいとか、楽しいとか、好奇心がないとダメで、感動すると好奇心があふれでてくるのじゃないかな」と感動を分析した子もいました。感動体験を素直に発表する姿にこちらが感動する場面も。



授業の終末では、授業者の感動体験として、大学生時代に訪れたアフリカのボツワナでの動画をスクリーンに映し出しました。心地良い沈黙。何かを感じたようです。心に響くすてきな授業でした。